２０１９年度市政懇談会　開催結果概要

●日　時　令和元年６月１４日（金）午後３時３０分～
●会　場　阿寒湖まりむ館
●出席者　９人

〔市長より説明　（別途資料参照）〕

〇つながる　まち・ひと・みらい　ひがし北海道の拠点都市・釧路

- 釧路市の現状と課題
- 釧路市まちづくり基本構想
- 雇用の拡大、人材の確保
- 子育て環境に係る施策
- 学力向上に係る施策
- 防災に係る施策
- 都市機能向上に係る施策

●質疑応答

【参加者Ａ】

市長から、色々と市の取り組みについてお話をいただき、その中でも、k-Bizが注目されて、活発に利用されているようですが、相談内容の傾向や釧路らしい特別な傾向があるのか教えていただきたい。

【市長】

やはり強みを生かすということでありますので、釧路の中で行っていることが強みになっております。相談内容の一つとして、スーパーの売り上げ増に係る相談の件がありました。今は、単身の方、一人で暮らす方が多く、コンビニ等でもその方々向けの小さな惣菜等を販売しております。スーパーの場合は、色々な魚や野菜等の取り扱いが取り柄となっております。そこで、材料としてそれらの一部を使って、お鍋や具材の入った新鮮なものを作って販売したらどうかという話しをしましたら、それが売れた訳です。材料の一部を有効に活用し、全て売り切ることができて、良い形になるといったことがあります。これは、素材が新鮮だからこそ、釧路ならではというものがあると思います。また、個別の会社の関係では、マリモのハーバリウムなどがあります。

【産業振興部長】

k-Bizへの相談の傾向としては、やはり人口が落ちてきて、高齢化もしているので、売り上げがなかなか伸びないということがあります。ＰＲしても、なかなか厳しいのでどうしたらいいのだろうと、皆さん色々と考えて、本当に困ってk-Bizに来られている方が多いです。実際、親身になってそこで相談をして、話をすることでまず一つ安心を持っていただきながら、普段はこの人たち向けに売っていたものを、こちらの人たち向けに売ってみたらどうかと視点を変えた形のお伝えをして、相談を行っているものもあります。

先程、話の中に出ていたまりもについてもそうです。観光客の方に、マリモは結構売れております。それを、今、お花の方では、ハーバリウムという形でいわゆる造花にして、長く保存をするというものがあり、それを利用して新しい商品を作れないだろうかというものです。今まで、従前どおり、マリモを売っていたものと、今、流行っているものとをコラボして組み合わせたら、新しい商品作りができないかといった提案から行った事例であります。

【参加者Ｂ】

今は、かなりインバウンドが増えてきております。釧路市として、インバウンド対応を何か具体的に行っているものがあれば教えていただきたい。

【市長】

観光立国ショーケース自体が、インバウンドの方々向けに、ストレスフリーの環境を整えることであります。ストレスを感じない環境にしていこうという中で、テーマになっているものがサインです。これは色々な表示となりますが、その表示の多言語化といったものが一つあります。あわせて、Wi-Fi 環境を充実するために進めているところです。その他には、トイレがどちらかというと和式が多かったので、洋式の形に対応することを行っております。

また、様々な情報発信を行っております。その中で、今、多く問題となっているのが、観光客向けの医療体制です。こちらの北海道立阿寒湖畔診療所の医療体制は、観光地として必須であり、そこがないと、修学旅行等の皆さんも来ないといったことになります。実際、こちらで体調を崩されたという方もいらっしゃいますし、市立病院等と共に対応を行っているところです。救急搬送の際には、アプリケーションが入った端末を用意し、コミュニケーションを取っているところであります。このような形で、ストレスフリー環境に合わせながら、これらの充実等について進めていこうと考えております。

【観光担当部長】

インバウンド対応ということで、特に、阿寒湖となりますと、一年を通じて、常に外国の方が平均的にお越しになっているかというと、決してそうではありません。たくさんお越しになる月もあれば、そうでない月もあります。季節によって左右されてしまうコンテンツだけでは、なかなか一年を通じて多くの観光客の皆様にお越しいただくことができないことに着目をして、阿寒観光協会まちづくり推進機構や阿寒アイヌ工芸協同組合とご相談しながら、今、様々な夜の楽しみ等を新しくスタートするために、皆さんと着手させていただいております。

我々、行政といたしましては、「ロストカムイ」「カムイルミナ」といったものを、より多くの方に伝えることのお手伝いをさせていただいております。本日の新聞に出ておりましたが、これから釧路には伊丹空港や中部セントレア空港から季節便の飛行機が来ます。何れも国際空港でありますから、多くの外国人の方々が、往来することになりますので、そこに巨大なスクリーン、ポスタ

ーを貼って、「ロストカムイ」のＰＲをさせていただいたり、皆さんと一緒に作りましたデジタル動画もＰＲに用いたりする予定です。これは、「ロストカムイ」や「カムイルミナ」といったものもそうです。そして、我々が作らせていただいた、全世界で約８１０万人の方に見ていただいている「８Ｋ動画」があります。これらを伊丹空港で一番乗客が往来する１３番ゲートという大型機が着く、良い場所をお借りしながら、地元阿寒湖の宣伝等も務めさせていただいておりますので、今後も阿寒観光協会まちづくり推進機構等と、様々な情報を共有しながら、情報発信に努めてまいりたいと考えております。

【参加者Ｃ】

毎年、住民から要望があると思いますが、先日も６町内会の総会がありまして、やはり、今一番、街並みの問題で気になるところは道路です。インターロッキングがでこぼこで、特に車椅子がまわせないとか、介護の方が車椅子を押していても、なかなか進めないといった課題があります。

以前から要望を出しているのですが、なかなか返答がないという話も町内会長から言われておりますので、将来的にこの状況を市として直すのかということをお聞きしたい。また、電信柱の地中化についても、一時、話には出ていたのですが、なかなか進まず、財政の問題も含めて、早急にということではないですが、やはり観光で、インバウンドも含めて多くの人が街を歩く中で、歩道を歩けずに車道を歩くという状況も多々ありますので、将来的に改善があればということでお聞きしたい。

【市長】

色々なことを行う時に、市が単独で実施しようとした場合には、釧路市の予算の中で進めていくということですが、やはり、予算というものは、色々な仕組みを使って、外から色々なものと組み合わせながら、結果は良い形で、しかし負担は少なくということが、行政体の考える財政運営だと思っております。私たちには、一生懸命に財政運営を進めてくれと、市民の皆さんから付託いただいておりますので、このような課題を解決することが、我々の最大の仕事だと思っております。

阿寒湖の道路のことについても、どのように進めていこうかというところで、実際に考えているのが観光立国ショーケースを含めた中でということであります。このような素晴らしいビューポイントがあるエリアでは、世界の中では、電柱や電線がないというのが一般的でありますので、そこで、それらとマッチングさせていけないのかということであります。

また、日本全国の首長の皆さんで、無電柱化を推進する市区町村長の会という会議があるのですが、なかなか前に進んでいかないという状況もあります。

特に、阿寒湖の市道について、どのように進めていけるかということですが、ここには何の管が埋設してあってという、地中の状況がなかなか認識できていないこともあり、地中にある管を誤って切ってしまうこともあるかもしれない

という課題もあります。
　そのようなことも含め、制度を活用しながら進めていくことを、今、模索しているのが実態です。無くなった訳ではありませんし、課題も解決していきます。そのためには、独自でできる規模ではないということもありますので、そういうところに位置付けながら考えていきたいことと、今も地中化の活動は、全国でいかに地方自治体の負担を少なくするか、要請等を国の方に行いながら進めているところですので、まだ目途がついておりませんが、そのような状況となっております。

【都市整備部長】

　無電柱化につきましては、今、国、北海道との協力を進めておりまして、まず、地中にどのような形状で実施できるかということを把握しようとしております。もし、進める場合についても、どのような方法がよいのか、色々と場所によって実施の方法が違うものですから、そこを研究している状況です。
　また、歩道の状況、傾斜や段差等については、色々と皆様から情報をいただいて、十分認識をしております。ただ、全面的にということは、なかなかできないものですから、緊急度の高いところから、一つずつ進めている段階であります。我々もパトロールを行っておりますが、そのような危ない箇所がありましたら、ぜひ、ご一報をいただいて、我々も現地を確認させていただき、その中で、早急に対応していきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

【参加者Ｄ】

　阿寒湖で働きたくて、阿寒湖に来て、家族を呼びたいけれど、住む場所がないということをよく聞きます。住める状態ではないのでしょうけれど、市営住宅で全然使っていない部屋等を、何とかできないものでしょうか。住みたくても住めないし、子を増やしたいけれど、住むところがないので増やせない状況です。国立公園ですから、どこでも住める訳ではないですし、土地が自由にならないので、今あるものを利用できるようにしていただきたいと思います。

【都市整備部長】

　ご指摘のように、阿寒湖温泉地区には、市営住宅が２３棟、２６２戸ありますが、実際に入居されているのは、１８５戸で、空きは７７戸となっております。我々も年次的な改修を進めているのですが、なかなか予算全体の額もありまして、一度に進めるということになっておりません。市営住宅の改修費用は、状況によりますが、５０万円ぐらいから場合によって１００万円を超えるものもあります。
　入居に係る皆さんのご希望については、年２回公募をしており、団地ごとにどこに入居したいというご希望を募って、その中で選考して入居していただいている形です。昨年は、阿寒湖畔については、申し込みが７件あり、５件入居という状況です。他に、期間を決めずに随時募集している部分については、昨年は１件の申し込みがあり、入居いただいております。

このような全体の需要バランス等も含み、市でトータル的に進めておりますので、なかなか進まない現状でありますが、今後につきましても、一つずつ進めていきたいと思っております。

【参加者Ｄ】

現在は、７７件空いている状況ということですか。そこには、住めるのでしょうか。

【都市整備部長】

空いておりますが、改修をしなければ住めない状況です。そこが大きな課題となっております。

【参加者Ｄ】

年に１戸ずつでも改修を行っていただいているのでしょうか。

【都市整備部長】

年によって、ばらつきはありますが行っております。１年、２年ではできませんが、全体の計画の中で進めていきたいと考えております。

また、市営住宅の入居条件は年収によるものがありますが、今回、まりも団地の場所に、特定公共賃貸住宅として、年収が若干高くても入居できる住宅の建設を今年度から着手することとなっております。こちらは１６戸で、令和３年３月に完成を予定し、４月以降に供用開始となる状況であります。これらも含めて、阿寒湖温泉地区の市営住宅について、しっかり取り組んでいきたいと思っております。

【市長】

市営住宅等の公営住宅には、入居条件等の制約があります。総建設費をおおよそ７０年で割り、その半分の３５年間分が家賃、その半分が補助金という考え方の中で、公営住宅は建設されております。市営住宅には、国からも補助金が入ってきております。補助金が入っているということは、国のルールに従わなければいけないことから、所得について、これだけ以下の人でなければならないという入居条件が出てきます。所得に関して、その倍ぐらいの世帯でも入居できる仕組みがありまして、このたび、その仕組みを活用して阿寒湖で行っていくものであります。

あわせて、先程お伝えした改修についてですが、現在、７７戸空いている状況で、市営住宅の１戸あたりの改修費は、５０万円～１００万円となっております。何故そこまでかかるのかと思われるでしょうけれど、先程お伝えしたとおり、私どもは公で行っておりますから、一つ一つの単価等が全て決められている状況の中で行っておりますので、それなりのコストがかかるのです。これらのことから、一度にそれだけ改修を行っていくことがなかなかできない状況であるということです。また、部屋の改修をしても、実は一番そこに入居したい層の方で、一定程度の所得がある場合は入居できないことがあります。そこで、このたびの特別公共賃貸住宅１６戸を設置する対応をしていこうということです。